

## 三法幢地免牘関係資料集

——總持寺祖院所藏史料を中心として——

秋津 秀彰

### 本稿の概要と目的

本稿は、拙稿「總持寺祖院所藏史料による研究の可能性——三法幢地の問題を事例として——」（本誌所収）・「近世における三法幢地の任命の経緯について」（『曹洞宗総合研究センター学術大会紀要』第二十四回、二〇一三年刊行予定）の資料編である。これら二論文において、三法幢地の制度史について総論的に再検討した。また拙稿「『正法眼蔵』開版停止・三法幢地に関する雑考——雲松院文書を中心として——」（『宗学研究紀要』第三十六号、二〇一三年三月）において、これら二論文の補足を行った。その基礎資料となる各種の免牘は、自治体史や寺史等において個別的に紹介されてきたが、それらを一覧するのは難しい。よって本稿は、前掲二論文における筆者の検討資料を提示するとともに、各時代の主要な免牘及びその関連資料を翻刻して紹介することで、利便性の向上を図ることが第一の目的である。合わせて、当初の検討資料として作成した「三法幢地一覧表」も掲載したい。これは、前掲二論文の基礎資料であり、各寺

院が三法幢地となった時期について、過去の一覧表を更新することを図ったものである。本表を公開することにより、その途中経過を提示することが第二の目的である。

なお本稿の作成に際しては、總持寺祖院（石川県輪島市）所蔵史料を多数使用させて頂いた。これは、鶴見大学仏教文化研究所主催の調査に同行させて頂いた際に撮影したものである。そのため本稿は、總持寺祖院調査の成果報告も兼ねる。

本稿では、史料を発給元や性格に応じて分類し、七節を設けた。以下、各節の収録史料の概要を説明したい。

「一、永平寺発行「掟」」では、永平寺が全国各地に発給した「掟」の内、主要なものを選んで掲載する。【史料1】は、同じく孤峰龍札が永建寺に発給した文書とは文言が大きく異なり、【史料2】以降により明確化される、「江湖興行、可為関東与同前事」の文言が含まれている点が重要であり、関三利が永平寺住持を務めるのが慣例化する前から、このような文言を含む文書を発給していたという点において、重要な側面を有する史料である。また永平寺がこのような掟・定をどこまで広域に発給していたかは重要な点であり、【史料3】の龍泰寺宛、又は正眼寺（愛知県小牧市）宛が、現在筆者が確認している発給先の東限である（總持寺祖院所蔵史料による研究の可能性<sup>参照</sup>）。永平寺が、これらを東海地方から中国・九州地方に渡る西日本各地に送付していたことの意味については、さらなる類似史料の蒐集を行い、発給先の地域や時期等による文言の変化を捉えた上での追加分析が必要であると思われる、今後の課題としたい。

「二、「宗門十六常会」宛「免牘」」では、元禄四年に常恒会地の申請の手順が定められる以前において、各所から所謂「宗門十六常会」に対して発給された「免牘」を選んで掲載する。これらについては、「近世における三法幢地の任命の経緯について」において元禄期以降の免牘と比較して検討した通り、【史料6】・【史料7】は永平寺・總持寺の判断によって発給されたもので、関三利等の判断によって発給されたものではない点が重要である。加えて【史料7】・【史料8】は未紹介史料であり、前者は、永沢寺が總持寺より常恒会地の免牘を発給されたことを知ることができるも

ので、制度形成期における最重要史料の一つである。後者は、毛利綱元（一六五一―一七〇九、長府藩三代藩主）の働きかけによって、関三利が功山寺の僧録としての支配地域の確認と、常恒会地としての寺格を認めたものと考えられ、特殊な申請経路を経て認可が進められたことを示すものである。なお功山寺について、『長福功山略記』（功山寺蔵）には、寛永年間には既にこれらに任じられていたと記載されている（『金山功山禅寺』、功山寺、一九八五年五月、一六九頁）。そのため、所謂「宗門十六常会」の定義も含めて、今後のさらなる検討を要する。

「三、元禄以降、享和以前、常恒会地「免牘」では、三法幢地増加の決定的な要因となったと考えられる【史料9】と、その後の元禄年間から享和元年（一八〇一）頃までにおける、永平寺の各世代が発給した免牘に、總持寺が発給したものを加えて、主要なものを掲載した。【史料9】についても「近世における三法幢地の任命の経緯について」を参照されたい。免牘の文言そのものも世代毎に微妙な変化が見られるが、大きな転機として、【史料16】の承天則地代を境に、寺院の来歴を評価する文言が省略されるなどの見直しが行われていることが挙げられる。変更後は、例えば【史料20】の円月江寂代には両者を併せたような文章になるなど、変化の幅が大きくなってくる傾向が見られる。

「四、片法幢地・随意会地「免牘」では、関三利及び双林寺・可睡斎が発給した片法幢地・随意会地の免牘を収録した。最初期のものは常恒会地のものと文言が類似している上、簡略であるが、後の時代になると寺院の来歴等の記載が詳しくなるなど、長文化する傾向が見られる。こういった点は、次項の常恒会地の免牘にも影響してくる。

「五、享和以降、常恒会地「免牘」では、享和年間以降の常恒会地の免牘を掲載する。重要な点は、永平寺ではなく、関三利が常恒会地の免牘を発給していることである。よってこの頃には、三法幢地の全てに対して関三利が免牘を発給するに至ったことが分かる。文言の趣旨は片法幢地・随意会地と相違はないが、発給者が変更されるに至った意味や経緯については今後の検討課題としたい。

「六、三法幢地「壁書」・「定」・「掟」では、関三利が発給した、結制安居の興行に関して遵守すべき事項を記載し

た書面の内、主要なものを掲載する。常恒会地に関しては、【史料10】の東昌寺に対しては元禄五年七月二十三日に発給されており、『そうわの寺院』Ⅱ・一四一頁）、文言はこの頃に確定した可能性が考えられる。また泰雲寺（山口県山口市）宛のものには「此外数通有之、収宝蔵」、『關雲志』上九四頁）の注記が付されているため、興行の度などに複数回発給されていた可能性もあり、それについては今後の課題としたい。片法幢地に関しては、寛保三年に寺社奉行の連署の下、定書を定めたとされている（『總持寺史』七二四～七二六頁）が、現在確認されているものとは文言が異なっている。随意会地に関しては、【史料36】の通り、先の二者とは異なり、内容に関する留意点を重点的に記している点が最大の特徴である。以上に加えて、【史料36】・【史料33】・【史料38】は一会江湖会の際に発給されたものであるが、【史料33】は三法幢地のものよりも時代が先行する上、【史料36】や、現在、結制を行う際に曹洞宗事務庁が発給する「制中口宣」とも一部の文言が類似している。これらの関連史料として、能仁寺（埼玉県飯能市）の「竜穩寺印珊警語」、『新編埼玉県史』資料編十八・五三〇頁）が挙げられる。【史料38】も「制中口宣」との関連性が考えられる他、「總持寺祖院所蔵史料による研究の可能性」で紹介した『祠曹雜識』の文言とは若干相違が見られるため、それぞれ参考として収録したものである。

「七、明治期発給「免牘」、免牘願書」では、近代・明治維新の後に、両本山から発給された免牘と、總持寺に対してそれを申請する際の願書を掲載した。両本山がこのような動きに出た理由は、「總持寺祖院所蔵史料による研究の可能性」において略述したので参照されたい。またこの時期の免牘及び申請書の変更点は、文言が完全に定型化されていることであり、相違点は寺院名や寺格のみである。それは申請書の方も同一であり、寺の来歴以外の文は全く同一の文言である。

上記の翻刻の後に、「三法幢地一覧表」を掲載した。これは總持寺祖院所蔵史料を中心に、現在明らかにされている全国各地の文献調査の成果を合わせ、各寺院が三法幢地に任じられた年月日をより明確にすることを意図したもの

である。本表は暫定的な成果報告であり、今後も史料蒐集を継続し、時期を改めて更新版を公開したい。また寺格の変更についても可能な限り記載したが、会下称号を兼ねている寺院がどこかといったことは今後の課題としたい。

以上、今回の一連の論考は、三法幢地研究の基本的な部分について再検討を行ったものであるが、多くの検討の余地は残されており、また全容の解明には、当然本稿で紹介した史料だけでは不十分であることは言を俟たない。しかし、現時点ではこれらによって大筋での流れは追跡できると思われるため、敢えて紹介することとしたものである。筆者自身も、追加での検討が可能であると判断した段階で再論したい。

### 史料翻刻・「三法幢地一覽表」凡例

一、史料翻刻は、【引用・参考文献一覽】から、主要・重要と考えられるものを選んで行った。

一、翻刻に際しては、旧字を新字に改め、筆者の判断で適宜句読点を付した。

一、改行位置は、原典とは異なっている場合がある。

一、典拠について、總持寺文書は『總持寺調査報告書』（B222等）の、總持寺祖院文書は『曹洞宗大本山總持寺能登祖院古文書目録』・『曹洞宗大本山總持寺祖院古文書目録』（「免牘6」等）の資料番号のみを示した。

一、前項以外の文献を典拠とした場合は、【引用・参考文献一覽】に書誌情報を一括して記し、当該箇所には引用典籍名と頁数・文書番号のみを付した。

一、「三法幢地一覽表」は、享和元年時点の一一五常恒会地、一九片法幢地、一一四随意会地の計二四八箇寺を記した『三刹留書』（愛知学院大学図書館情報センター横関文庫所蔵、請求記号：横関188845）を基準とし、その後に、「五院輪住969」（後述）により、一旦認可を得たが、後に随意会の休止に至ったと考えられる寺院一五箇所寺、享

和年間以前の免牘が確認されるが、『三刹留書』には未記載の寺院五箇寺、『總持寺史』（六九七〜六九九頁）等に基づく、享和年間以降に認可された寺院一七箇寺、会下称号のみの寺院三箇寺の順で配列した。

一、冒頭の二六三箇寺については、本末関係に基づく派名を参考として記した。なお大乘寺・永光寺の末寺に關しては、敢えてその旨を記した場合がある。また「通幻派」は、了庵派・天真派・石屋派等以外の派を総合した表記である。

一、「通番」は先の基準の通りの番号、「五院輪住969」は「常恒会・随意会・輪番寺院・寺数覚帳」（五院輪住九六九、釧五四〇）、「總持寺祖院所藏史料による研究の可能性」（参照）に記載される常恒会地・随意会地の記載順である。

一、「享和寺格」は検討の基準とした各寺の三法幢地格で、享和元年（一八〇一）時点、又はそれ以降に免牘が発給された寺院の場合はその寺格を記す。

一、認可年月日は「享和寺格」を対象とし、「總持寺史」（『總持寺史』六八八〜六九七頁）、「鶴見・祖院目録」（横浜總持寺文書・總持寺祖院文書に依るもの）、「その他典拠」（上記以外の【引用・参考文献一覧】掲載資料に依るもの）の典拠毎に分類して示した。

一、常恒会地の認可年月日は永平寺の免牘を基準に定めたが、関三刹の定に依った場合はその旨を明記した。

一、「鶴見・祖院目録」の内、典拠が「五院輪住969」となっているものは、その記載順によって認可年を推定したものである（『總持寺祖院所藏史料による研究の可能性』参照）。

一、「享和寺格」が昇格後である場合、又はそれ以降に昇格がなされ、その時期が判明している場合は、二箇所の「寺格変更」に変更前後の寺格と認可年月日をそれぞれ記載した。ただし、近代における寺格変更は原則として対象としなかった。

一、「その他典拠・寺格変更詳細、備考」には、「その他典拠」の文献名や、注意を要する事項等を記した。なおその

中の「文化財」は、『曹洞宗宗宝調査目録解題集』・『曹洞宗文化財調査目録解題集』の略称である。

付記 本稿の執筆に際してお世話になりました、總持寺祖院様、鶴見大学仏教文化研究所様、永平寺学術事業委員会主任調査研究員長谷川幸一様に御礼申し上げます。

【引用・参考文献一覧】

- 栗山泰音『總持寺史』（大本山總持寺、一九三八年三月）  
『埼玉県教育史』二（埼玉県教育委員会、一九六九年三月）  
『正眼寺文書目録』（愛知学院大学附属図書館、一九七三年二月）  
長谷川宏編『武州龍淵寺史料』（私家版、一九七六年二月）  
横関了胤『（註）洞門政要』（東洋書院、一九七七年一月）  
笹尾哲雄『秋田県に於ける曹洞宗史の研究』（大悲禪寺、一九七八年三月）  
『大野市史』第一卷 社寺文書編（大野市史編さん室、一九七八年三月）  
熊谷忠興編『永平寺年表』（歴史図書社、一九七八年四月）  
守屋茂編『宇治興聖寺文書』一（同朋舎出版、一九七九年十一月）  
『諏訪の名刹』二 曹洞宗（南信日日新聞社、一九八〇年一月）  
『内閣文庫所蔵史籍叢刊』七（史籍研究会、一九八一年六月）  
『永平寺史』（大本山永平寺、一九八二年九月）  
『県内主要寺院歴史資料調査報告書』（二）（熊本市・城南地区）資料編（熊本県立美術館、一九八三年三月）

佐々木章格編『茨城県曹洞宗寺院誌』（曹洞宗茨城県宗務所、一九八三年十二月）

『埼玉県寺院聖教文書遺品調査報告書』Ⅰ（埼玉県教育委員会、一九八四年三月）

『厚木市史』近世史料編（Ⅰ）社寺（厚木市、一九八六年八月）

『新編埼玉県史』資料編十八（埼玉県、一九八七年三月）

『豪徳寺——文化財総合調査報告——』（東京都世田谷区教育委員会、一九八七年三月）

『奥の正法寺——正法寺総合調査報告書——』（『水沢市文化財調査報告書』第十七集、水沢市教育委員会、一九八七年三月）

金子帰山『皓臺寺誌』（海雲山皓臺寺、一九八七年四月）

『可睡斎資料集』一 寺史史料（思文閣出版、一九八九年十月）

『曹洞宗宗宝調査目録解題集』一～二（曹洞宗宗務庁、一九九一年六月～一九九九年九月）

『そわの寺院』Ⅱ（総和町教育委員会・町史編さん室、一九九二年三月）

鈴木鉦三編『靈樹山耕雲寺六百年誌』（靈樹山耕雲寺、一九九五年四月）

横浜市文化財研究調査会編『總持寺調査報告書』（『横浜市文化財調査報告書』第二十八輯、横浜市教育委員会、一九九七年三月）

『曹洞宗文化財調査目録解題集』三～八（曹洞宗宗務庁、一九九六年三月～二〇一八年三月）

片柳茂編『本光寺文書』（大明山本光寺、二〇〇一年五月）

関口道潤校訂『關雲志』上・下（泰雲寺開創六百年記念式典事務局、二〇〇三年七月）

『曹洞宗大本山總持寺能登祖院古文書目録』（日本近代仏教史研究会、二〇〇五年三月）

『曹洞宗福島県北寺院世代名鑑』（曹洞宗福島県北青年会創立三十周年記念事業実行委員会出版部、二〇〇六年二月）



『是字寺龍海院誌』（龍海院、二〇〇六年八月）

圭室文雄『總持寺祖院古文書を読み解く——近世曹洞宗教団の展開——』（曹洞宗宗務庁、二〇〇八年十月）

『佐賀県近世史料』第十編第二卷（佐賀県立図書館、二〇一二年三月）

『永平寺史料全書』文書編（以下、『文書編』）一～三（大本山永平寺、二〇一二年十月～二〇一八年十二月）

永井俊道「近世曹洞宗における僧録設置に関する諸問題について」『仏教経済研究』第四十三号、二〇一四年五月

『曹洞宗文化財調査目録及び解題』三二六 妙義寺（『曹洞宗報』第九六三号、二〇一五年十二月）

椎名宏雄「寛巖春登の伝記と語録」（『曹洞宗総合研究センター学術大会紀要』十七回、二〇一六年七月）

『曹洞宗文化財調査目録及び解題』三三一 龍雲寺（続）（『曹洞宗報』第九七二号、二〇一六年九月）

『曹洞宗文化財調査目録及び解題』三三八 洞泉寺（続）（『曹洞宗報』第九八四号、二〇一七年九月）

『曹洞宗文化財調査目録及び解題』三四三 源光庵（続）（『曹洞宗報』第九九六号、二〇一八年九月）

『曹洞宗文化財調査目録及び解題』三四九 禅定寺（続）（『曹洞宗報』第一〇〇七号、二〇一九年八月）

拙稿「永平寺三十六世融峰本祝の伝記について」（『宗学研究紀要』第三十四号、二〇二一年三月）

『武蔵国小机臥龍山雲松院史』（雲松院、二〇二〇年一月）

『曹洞宗大本山總持寺祖院古文書目録』（輪島市教育委員会、二〇二一年三月）

一、永平寺發行「掟」

【史料1】 孤峰龍札（一五七八〜一六四六）僧錄狀・定写

正保二年（一六四五）六月二十八日、高伝寺

（佐賀県佐賀市）宛（免牘三二三）

僧錄狀 写

肥前国佐嘉郡本庄郷、恵日山高伝禅寺、依為鍋嶋信州太守帰依、夺任先規附曹洞一宗之僧錄。写 御朱印壁書一通、指出者也。厥国、不依自他流、洞家之軌則、儼蜜可申付候。若於貴寺背法意者、就<sub>于</sub>当山、可決是非者也。仍執達如件。

永平寺

正保二乙酉林鐘廿八鳥 龍札判

進上

高伝寺

参

定 写

一、法幢師之時代、如 御朱印可為三十年事。

一、江湖頭之時代、如 御朱印可為二十年事。

一、如 御朱印二十五年之時代於歷然者、其門首<sub>江</sub>致事手形、嗣法師以推拳狀、可登山事。

一、初法幢之師<sub>并</sub>首頂時代、於貴寺儼蜜<sub>七</sub>令穿鑿、若未熟之儀於有之者、僧錄<sub>共</sub>可罪過事。

一、江湖興行、可為閑東<sub>与</sub>同前事。<sub>付</sub>山居長老、不可唱

秉炬法語事、殊不可着出世袈裟衣事。

右条々、違背之族有之者、宗門之法度、急度可申付。

仍如件。

永平寺

正保二乙酉曆林鐘廿八鳥 龍札判

高伝寺 参

右之通、相違無御座候。已上。

肥前佐嘉高伝寺（印）

天明六丙午曆六月十五日 大英（花押）

惣持寺

御役局

【史料2】 高国英峻（一五九〇～一六七四）壁書

万治二年（一六五九）、永建寺（福井県敦賀市）

宛『文書編』二・一三七頁、法度・掟二、一部句

読点を改めた）

掟

一、吾宗規矩、可為如当寺之家訓先規矣。勿論、諸法度

可守 御朱印之表事。

一、江湖聚会万般、衆数等、可為如東関叢林事。

一、其寺家・門末・塔司等勤行集来、保護自己処專要也。

当山 初祖大禪師為像季不正師学、有警誠語。修行

仏道者、先須信仏道、信仏道者、須信自己<sup>云々</sup>。当

寺先師代々之壁書、依為審細不及重說事。

右条々、於違背族有之者、急度当山<sup>江</sup>可被遂披露者也。

仍壁書如件。

万治二<sup>己亥</sup>年季春十日 永平寺 英峻（花押）

永建寺

【史料3】 鉄心御州（？～一六六四）壁書

寛文元年（一六六一）九月十七日、龍泰寺（岐

卓県関市）宛『曹洞宗文化財調査目録解題集』

八・七五四頁）

掟

一、如 天下御朱印表、法幢師者、於三十年修力入眼者、

僧録令披露、可匡一会清規事。并転衣者、致立身於

經五年者、門首遂披露、以嗣法師推拏状、登山本寺

受持請状、可奉頂戴 御綸旨事。殊江湖頭者、成就

二十年僧臘、於僧録遂僉議於明歷者、可申付事。且

一山追放之徒、於諸山不可許容。又為末寺、不可背

本寺之掟事。

一、我心自在而無本寺、栖居寺院庵軒等、急度改之、可

定本寺事。其趣者、諸宗俱、從御公儀仰付有之矣。

且為山居長老、秉炬法語、堅可令停止之事。厥旨者、

山居長老者、救自己、不利他之謂也。

一、江湖聚会者、如関東定九旬規矩、儼密可糺旧例事。

雲水徒者、御朱印表、雖為清衆百箇、<sup>實</sup>實地之諸刹、

難成其興行故、本寺衆以品評、天下御奉行所得内

意、衆徒七十箇、相定者也。此外先代、従本寺諸国廻壁書之通、速可被申付事。

右条々、其国曹洞一宗之輩、大小寺院、其外到庵軒等、従貴寺急度制法、可被申付事。若違背之徒於有之者、可処罪科事必也。仍悉達如件。

永平寺

寛文元辛丑歳九月十七日 御州（花押）

美濃国

龍泰寺

【史料4】 光紹智堂（一六一〇～一六七〇）壁書

寛文五年（一六六五）五月、洞寿院（滋賀県長

浜市）宛（免牘六）

掟

一、吾宗諸法度、可任 御朱印之表事。

一、江湖聚会衆之多少、其他九句之儀式、可為如東関事。

一、当寺先師代々之壁書、為明鏡間、可被守其記文事。

右、先師先判僧録狀、分明也。今亦不及損益、如先規西近江之分、従貴寺宗門之仕置、可被致候。若違背之師学於有之者、当山<sup>江</sup>可披露。詮議之上、急度可申付者也。応先書之旨、仍僧録狀如件。

永平寺

寛文五<sup>乙</sup>歳五月日 光紹（花押）

江州 洞寿院

※吾宗諸…文字上ニ朱印「日本曹洞宗吉祥山永平禪寺」

アリ。

二、「宗門十六常会」宛「免牘」

【史料5】 光紹智堂（一六一〇～一六七〇）常恒会地免牘

写

寛文八年（一六六八）二月十五日、関三刹宛

（免牘七、免牘二〇三、由緒一三）

各三箇寺、常法幢之望、就有之、当山<sup>江</sup>訴訟之段、尤令

存候。三箇寺者、天下之僧録<sup>ニ</sup>候間、余寺<sup>与者</sup>各別之間、常法幢可為專要者也。自今以後、何之寺院<sup>ノ</sup>致訴訟候共、三箇寺之外<sup>者</sup>、可為無用者也。為其常法幢免許狀、仍如件。

寛文八戊申歲 永平寺

仲春望日 光紹花押

總寧寺

大中寺

龍穩寺

【史料6】 月洲尊海（一六〇八〜一六八三）常恒会地免牘

延宝二年（一六七四）二月二十八日、大乘寺

（石川県金沢市）宛『文書編』二・六九九頁、一

部句読点を改めた

定

加州大乘禪寺者、徹通介和尚之道場、而吾宗拔群之法窟也。依是与城之興聖齋。自今已後、常建法幢安居結制、

永不可有怠慢、為後証仍狀、如斯。

<sup>(印)</sup> 吉祥山永平寺

<sup>(印)</sup> 現住尊海（花押）

延宝二<sup>歲次</sup><sub>甲寅</sub>仲春廿八日

【史料7】 永沢寺（兵庫県三田市）常恒会地願書写、總持

寺五院常恒会地免牘写

延宝四年（一六七六）九月四日、景福寺（兵庫

県川辺郡猪名川町）・洞光寺（兵庫県丹波篠山

市）・円通寺（兵庫県丹波市）より總持寺五院

宛願書

延宝七年六月五日、總持寺五院より景福寺・

洞光寺・円通寺宛免牘（從惣持寺之録狀並諸書

出（七冊之内四）、法度・掟二七一）

永沢寺常会願之節、隣峰三寺<sup>ノ</sup>指出候願書之写

一、独住之時者、幸宗門江湖之修行者、永沢寺ニ初リ申

由、承伝候間、常結制ニ為 仰付國中偏歴之僧、不

然永沢寺衆寮ニ相窮、諸方往来之徒、望次第ニ何連

茂入打飯を以、致掛錫国内之僧者、一年二季ニ相結、

景福寺

右之結衆之中、首座相定其外、一会之報恩錢三百目宛被納置、住持并三寺致縮力置修理料、並公界料仕度事。

【史料8】 関三利常恒会地掟

天和二年（一六八二）四月十一日、功山寺（山

延宝四稔丙辰九月四日 景福寺 智外

摠持寺 円通寺 存及

五役局中 洞光寺 慈雲

掟

依願独住常会之地ニ付御渡候節、三寺江出候副狀之写

一、青原山常結制掛錫等之儀、先年三寺書出之通可申渡。縱雖為常結制錫帳之表、遂吟味可有渡数事。

一、長門之内、長府功山寺儀、毛利甲斐守殿、三郡之内、

拝領在之候以後、及八十年支配仕来候。結制等之儀者、先三箇寺江、守護より願被申。依三寺免許、唯今迄無斷絶、勤来候由、甲斐守殿家老衆、三ヶ寺へ書狀被差添候。然上者、如前々三郡之内ハ支配可被仕。結制等之儀も任先規弥可被執行者也。

普蔵院 在判

延宝七年六月五日 妙高庵 在判

洞川庵 在判

伝法庵 在判

如意庵 在判

天和二年 總寧寺（印）

戊四月十一日 大中寺（印）

永沢寺後見

円通寺

長府

洞光寺

功山寺

龍穩寺（印）

三、元禄以降、享和以前、常恒会地「免牘」

太平山龍淵寺

【史料9】 関三刹常恒会地証文写

元禄四年（二六九二）四月二十七日、龍淵寺（埼玉県熊谷市）宛（長谷川宏編『武州龍淵寺史料』、私家版、一九七六年十二月、二七頁、一部句読点を改めた）

【史料10】 版橈晃全（二六二五～一六九三）常恒会地免牘

写

元禄四年（二六九二）十一月七日、東昌寺（茨城県猿島郡五霞町）宛（明治期史料三）

常結制願、從関東三箇寺、

奉窺

○常法談御免許証文

一、龍淵寺常法談、中絶之由<sup>ニ</sup>而、公儀<sup>江</sup>御訴訟仕候処<sup>ニ</sup>、

元禄四年<sup>辛未</sup>四月九日、於戸田能登守殿御評席、小

笠原佐渡守殿・本多紀伊守殿御列座、子細在之。寺

之義候得者、余寺之例<sup>ニ</sup>者罷成間敷候。向後、常法

幢相動候様<sup>ニ</sup>与御免許、被仰付候。因茲、從三箇寺

証文可出之旨、被仰渡候条、如件。

元禄四<sup>辛未</sup>年四月廿七日

總寧寺 融峰判

大中寺 連山判

武州忍領成田

龍穩寺 月峰判

公儀之趣、訴与来、誠東昌寺者、為即庵一派之本寺、并古跡之大禅刹。因茲、許可夏冬常恒結制。自今以後、須守永平四威儀規矩、目定衆法数。仍免翰、若件。

元禄四年 永平寺

<sup>辛未</sup>十一月七日 晃全

贈 山王山 東昌寺

※元禄期に発給された免牘の中では最初期に位置づけられる。後に発給された【史料10】と比較すると若干文言が異なるため、共に晃全が発給したものではあるが、

敢えて二点掲載した。

【史料11】 版橈晃全常恒会地免牘写

元禄六年（一六九三）二月二十一日、青松寺

（東京都港区）宛（免牘三〇四）

県高岡市）宛（「近世曹洞宗における僧録設置に関する諸問題について」二二六～二二七頁、一部句読点を改めた）

定

今回、青松寺常結制願、從  
関東三箇寺、奉窺

公儀趣、訴与来、寔青松寺者、為古跡並衆僧所聚会大叢

林、江戸三寺一数。因茲、許可夏冬常恒結制。自今以後、

可守永平四威儀規矩、以定衆法数。仍免翰、若件。

一、越中州高岡瑞龍寺者、依為国君之菩提所、曾充本州之僧史職。這回隨望、為常恒法幢之地、自今以後、長則仏祖之軌範、每歲冬夏二期、嚴重安居結制、不可有怠惰者也。

右依、公儀之嚴命免許状、如弃斯。

普藏院

永平寺印

元禄六龍集癸酉季秋念五萱 授峰 印

元禄六年

晃全 花押

妙高庵

癸酉二月二十一日

照外 印

贈

江戸 青松寺

洞川庵

義山 印

【史料12】 總持寺五院常恒会地免牘

元禄六年（一六九三）九月五日、瑞龍寺（富山

伝法庵

孝尹 印

如意庵



天海 印

【史料13】 融峰本祝（二六一八〜一六九九）常恒会地免牘

写

元禄十二年（一六九九）六月四日、神応寺（京都府八幡市）宛（免牘二五）

這回、神応禪寺常結制願、從

關東三箇寺、奉窺

公儀趣、訴与来、寔神応禪寺者、為古跡<sup>并</sup>衆僧所聚会之叢林。因茲、許可夏冬常恒結制。自今以後、可守永平四威儀規矩、以定衆法数。仍免翰、若件。

元禄十二年 永平寺

己卯六月四日 本祝御判

城州八幡

贈 神応禪寺

※本史料によつて、「永平寺三十六世融峰本祝の伝記について」の結論の一つである、示寂年を『關雲志』に

拠つて元禄十二年とし、示寂日を「天保十年記録」に依つて五月二十二日とする説は訂正しなければならぬ。ただし、示寂年を『關雲志』に拠つて定めることは妥当と考えるため、現時点においては、示寂年は元禄十二年のままとし、示寂月日は不明としておきたい。

【史料14】 石牛天梁（一六三七〜一七一四）常恒会地免牘

写

宝永二年（一七〇五）、乗国寺（新潟県上越市）

宛（免牘三〇四）

這回、乗国寺常結制之願、從關東三

箇寺、奉窺

公儀之趣、訴与来、誠是乗国寺者、為衆僧所聚会之古叢林。因茲、許可夏冬常恒結制。自今以後、宜準永平之清規、且守結衆之定数。仍免翰、如件。

宝永<sup>乙</sup>二西曆 永平寺

季冬十一日 天梁在印

贈越後高田

乗国寺

(長野県東御市) 宛 (定津院紹介パンフレットの写  
真に依る)

【史料15】 緑巖巖柳(？)一七二六 常恒会地免牘写

正徳四年(一七二四) 七月五日、鳳林寺(大阪  
府大阪市) 宛(免牘三〇五)

信州臨川山定津院、常恒結制、既関三山達 公廳許与来  
矣。向後、宜遵守於永平家訓、宗門規矩、而如法勤務者  
也。仍免証、如件。

定

永平寺

這回、其寺常結制願、從関三箇寺、窺公席落居。寔鳳林

享保十<sup>乙</sup>巳歲

寺者、為古跡<sup>并</sup>衆僧所聚會之叢林。因茲、可挙唱 夏冬

三月廿六日 承天(花押)

常恒結制。自今以後、可守永平四威儀規矩、以定衆法数。

信州祢津

仍与以免翰。

定津院

正徳四年<sup>甲午</sup>年

七月五日 永平寺

【史料17】 總持寺五院常恒会地免牘

現住

享保十二年(一七二七) 四月八日、天徳院(免

巖柳印

牘三七)

鳳林寺

定

【史料16】 承天則地(一六五〇一七四四) 常恒会地免牘

享保十年(一七二五) 三月二十六日、定津院

一、加州金龍山天徳院者、依為国君之菩提所、相並本州

宝円寺、曾充加能兩州之僧史職。這徧隨望、為常恒法幢之地、自今以後、長則仏祖之規範、每歲冬夏二期、嚴重安居結制、不可有怠惰。

右依

公儀之嚴命、免許狀如斯。

普藏院

享保十二龍躔<sub>丁未</sub>孟夏仏生日 古嚴(印)

妙高庵

円通(印)

洞川庵

了之(印)

伝法庵

覚順(印)

如意庵

瑞立(印)

天徳院

【史料18】 大虚喝玄(一六六一〜一七三六)常恒会地免牘

享保二十年(一七三五)十月五日、皓台寺(長

崎県長崎市)宛『皓臺寺誌』一六七頁、一部句読点を改めた)

肥前国長崎皓台寺、常恒会之事、於関東既落著来矣。向後、宜準行宗門之定規者也。仍免翰、如件。

享保廿<sub>乙卯</sub>歲 永平寺

十月五日 大虚(印)

貼在

皓台寺

壁間

【史料19】 義晃雄禪(一六六九〜一七四〇)常恒会地免牘

写

元文三年(一七三八)九月十日、興源寺(栃木

県鹿沼市)宛(免牘四〇)

下野国加蘭邑興源寺、常恒建法幢之事、既

関三寺達 公廳落著来矣。向後、須遵守吾山家訓、宗門

定規、而如法興行者也。

元文三戌牛歲 永平寺

菊月十日 義晃花押

貼

興源寺

壁間

※本文書については、「總持寺祖院所藏史料による研究の可能性」注(12)参照。

【史料20】 円月江寂(一六九四〜一七五〇)常恒会地免牘

寛保二年(一七四二)、龍泰寺宛(免牘四三)

濃州下有知邑、祥雲山龍泰寺者、無極初開、月江再住、華叟三派之古道場也。今般、常恒結制、既関三山達公廳許与来矣。向後、宜遵守於永平家訓、宗門規則、而如法勤務者也。仍免証、如件。

永平寺

寛保二壬戌歲 円月(印)

九月初四日

龍泰寺

【史料21】 宝山湛海(一六九五〜一七七二)常恒会地免牘

宝曆九年(一七五九)、大慈寺(熊本県熊本市)

宛(『県内主要寺院歴史資料調査報告書』(二)(熊本

本市・城南地区)資料編一二九頁、一部句読点を改めた)

掟

肥後国大梁山大慈寺、常恒結制、既関三寺達公廳許与来矣。向後、宜遵守於吾山家訓、宗門規則、而如法勤務者也。仍免証、如件。

宝曆九己卯年 永平寺

七月十日 現住湛海(花押)

贈

大慈寺

【史料22】 成山台明(？〜一七九二)常恒会地免牘

天明五年(一七八五)七月二十五日、洞寿院

宛（免牘六六）

免牘

江州塩谷山洞寿院、常恒会結制、既関三寺達 公聽許容来<sup>矣</sup>。向後、宜遵守高祖家訓、宗門規矩、而如法勤務者也。仍免証、如件。

永平寺

天明五<sup>乙巳</sup>年 台明（花押）

七月廿五日

洞寿院

四、片法幢地・随意会地「免牘」

【史料23】 双林寺随意会地免牘写

元禄九年（一六九六）九月十五日、長学寺（群馬県富岡市）宛『文書編』三・八二頁）

定

一、随意法会之願遂吟味処、高尾長学者、道元和尚十九

世之孫、儀山和尚開闢焉。既百三拾余年之為古会下、

大猷院殿於御代三拾石之 御朱印

拝領畢。且前田氏利重公為大檀那。因茲、自今已後、許可二三箇年一会結制。須守永平四威儀規矩、以定衆法数。仍免翰若件。

双林寺建巖 印

元禄九丙子曆仲秋十五日

贈 上州高尾長学寺

【史料24】 関三利随意会地免牘写

元禄十二年（一六九九）四月、龍沢寺（愛媛県西予市）宛（免牘四二五）

定

予州宇和島龍沢寺者、依為僧録司任願望之旨、不抱制禁年数、随意会<sup>并</sup>会下称号結制有恕之訖。雖然、不混常法幢・片法幢勿論、不減清衆七十箇、如法可執行之。仍而免状如件。

龍穩寺

印珊 印

元禄十二<sub>己卯</sub>年

四月 大中寺

石牛 印

總寧寺

緑岩 印

予州宇和島

龍沢寺

如法、可執行者也。

元禄十四年辛巳年正月廿三日

大中寺月心印

龍穩寺印珊印

總寧寺緑岩印

双林寺建岩印

信州余地村

自成寺

【史料25】 関三利・双林寺随意会地免牘写

元禄十四年（一七〇一）、一月二十三日、自成

寺（長野県南佐久郡佐久穂町）宛（免牘一六）

【史料26】 関三利随意会地免牘

元禄十五年（一七〇二）八月三日、正法寺（随

意会地、『奥の正法寺——正法寺総合調査報告書

——』古文書・寺宝編一六頁、一部句読点を改め、

また龍穩寺世代の誤字を改めた）

随意会免翰

信州佐久郡余地村自成寺者、式百年余之古跡、殊 大猷

院様以来、御代々

御 朱印高拾一石頂戴所持之間、任願望旨随意会、令免

許畢。左、不混常法幢・片法談、不乱国風、入夏冬定数

奥州胆沢郡黒石正法寺者、無底一派之古本寺、有六祖伝  
来之法衣、天童如浄之正筆。加之、従仙台大守公殿堂造  
営、並為永七貫文之黒印地。雖可致興行常法幢、貧境故、

先不混常法幢・片結制、如法立会下、随意会下、為執行者也。

元禄十五<sup>壬午</sup>天 總寧寺

八月三日 緑岩(印)

大中寺

月心(印)

龍穩寺

印珊(印)

正法寺

【史料27】 関三利随意会地免牘

享保十一年(一七二六)二月、慈光寺(新潟県

五泉市)宛(免牘三五)

免牘

越後国浦原郡村松領滝谷、明白山慈光寺者、太源下、梅山之法嗣、傑堂能勝挿草之地、而三百年外之古道場也矣。矧同国村上往昔之城主大檀、堀丹後刺史直寄公、割百石之膏腴、而為香積之資兮。猶且当村松城主、堀左京兆直

長公、勇於繼善、乃增加若干之田山、而以永為金湯矣。凡為伽藍界者、垂二十程兮。加之、称門末支裔者、百有余院也。既而留錫之縑侶、不下尋常五百指兮。故称呼会下者、蓋復有年焉。建法幢、唱祖宗之設備足矣。這回、寺主靈泉、特来而推願轂兮。因茲品評之上、糺厥旧由、而令許可于随意会法幢、兼会下称号之地畢。将来、不混于常恒会及片法幢、如定規、或三年或四年、每会領七十箇之衆僧、而可興行者也。

大中寺

享保十一龍舍<sup>丙午</sup>仲春日 雄禪印

龍穩寺

大川印

總寧寺

喝玄印

貼

慈光寺

壁間

【史料28】 関三利片法幢地免牘

延享五年（一七四八）三月十一日、清源院（神

奈川県厚木市）宛（『厚木市史』近世資料編（1）

社寺八一七〜八一八頁、句読点を一部改める）

清源院

【史料29】 関三刹片法幢地免牘写

寛政二年（一七九〇）六月、香積寺（新潟県柏

崎市）宛（免牘三一八）

免牘

相摸国愛甲郡三田邑、東福山清源禅院者、天巽之道場也。特天正年中、頒賜 朱璽、而資糧不乏殿宇兼備、且其末派、洋々四来、常潮宗実。是一方之僧伽藍所、而以堪立法幢、播揚宗綱。雖然、有故而闕之属、其門庭者思之于斯年、幸現住乾外長老与俱、欲遂素懷親来、訴願以片法幢会、及会下称号。屢檢校之門檀、同举由緒、亦顯然也。於此、品議一決、而許可之訖。将来、不混同于常恒会・随意会、一歳一回、如法可執行之。仍而免券、如記。

大中寺

延享五戊辰年

央元（印）

三月十一日

龍穩寺

穿山（印）

総寧寺

壺春（印）

相州三田邑

越後国刈羽郡柏崎駅飯涌山香積禅寺者、康元年中、柏崎氏源姓勝長公、初立雄基、而後応永中、永平九世之孫、龍田和尚演法之棠陰也。厥德之所、広運真倍帰崇、伽藍造営、供衆弁用完備矣。是以天明丙午載、現住仙海長老、繼歷代之素志、来懇求随意会、会下称号、而不措也。遂屢會議已、許可之畢未幾尋、亦欲永建片法幢、唯願数回於此再三、精覈則支院諸檀之外護弥固、会糧資材増積、而法輪常転者、勿論也。故三評一定、渡与免簡矣。向來不混常会、一歳一会、宜如法勤修者也。

總寧寺

寛政二庚戌歳 智栢印

六月 大中寺



貞順印

龍穩寺

宏隆印

越後国柏崎

香積寺

【史料30】可睡齋随意会地免牘写

寛政七年（一七九五）六月、大興寺（静岡県牧

之原市）宛（由緒一〇）

免牘

原夫、遠江国榛原郡相良庄西萩間村、龍門山大興寺者、

大徹禪師、最初開闢之金地、而昔時禪風播揚、金龍玉象、

蒙化益祖道。大興山翁、野客結勝縁、蓋以龍門万丈杳無

辺際、三級漲出未派流長。是則開祖之徳沢也。誰能測度

焉者哉。雖然、祖庭之凋落、禪園之春秋、濁也之常、而

全非及人力之処、至於末法今日、而法運漸衰、万規邈于

昔日。嗚呼秋哉、希有哉、丁于寛政乙卯年、而寺主泰國

愴然、感觀開祖之遺風、而頻逼復古志。於茲乎、贖衣鉢  
余金二百斤、而以為法幢料、發起三年一回随意会之志願、  
而欲誓求於仏日增輝、法輪常転之利益矣。果然盛衰、何  
常要在得人乎。是以探三門首、胸臆糾同心異志之旨趣、  
今正免許三年一回随意会之安居、顚然也矣。然則、結果  
定数、全不可減六十箇所、所謂法依人興人依法立、雖然  
法之本来元無盛衰。宗門之興廢、懸有僧徒、是以如法依  
遵仏祖枯淡之家訓、而嚴密守古規条例、而專教誠後学、  
則法永流通者歟。縱使有虚空尽日三年一回安居、永不可  
廢墜者也。仍而免牘如件。

可睡齋

寛政七乙卯年六月

擔休

大興寺

## 五、享和以降、常恒会地「免牘」

【史料31】関三刹常恒会準格免牘写

文政九年（一八二六）十月七日、丈六寺（徳島

県徳島市）宛（由緒三）

阿州丈六寺者、金岡四所棠蔭、而居其第二於宗門班爵、不賤矣。明応九<sup>庚</sup>申歲次、大守細川讃岐刺史、喜捨饒田、暨境内四万余畝、而明著心宗之興隆矣。然後、天正中、蜂須賀阿州大守、寄付二百石、而給供衆資糧。是以常住之費用、相富無不足矣。特闕鼎足者、法幢矣。因之、現住百川、以国主推轂与檀度支利之左祖<sup>祖</sup>、而願求準常恒会地格、会下称号、法事会修行三五歲一会者、以請其許狀、而不休矣。乃稽察宗掟、亦無敢忌諱者於爰評議一定、而諾其願矣。夫企望法幢之諸刹、而莫乱宗制、若違格犯制、則碩罰到立地耳矣。仍卑免書垂後鑑。

文政九<sup>丙</sup>戌年 龍穩寺

十月七日 慧常印

大中寺

透明<sup>就故障無加印</sup>

總寧寺

禹隣印

阿州本庄

丈六寺

【史料32】 関三刹常恒会地免贖

文政十一年（一八二八）六月二十二日、鶴林寺（石川県金沢市）宛（免贖一〇七）

加越能三州之大守、菅原齊泰郷、特上鶴林寺以為祈禱道場、且割膏腴之地、一百石而充香積、每歲給三十金、以香湯更以一段大事、而命見住鶴林暖源也者、而令請准位階於常恒会、国僧統不是瑣々事、安得輒肯諾乎。然齊泰郷、令長瀬忠良為使節、數請此事成矣。吾儕亦可得拒焉哉。熟案、喬答摩言、吾法附囑国王大臣今也。於此举似拳新条、不無往例、将亦自是鎮長仏法光輝、莊嚴弥増、宗猷金玉、声價益高、于茲鼎儀一決、而如其請、許可畢。将来、日々時々、戦々競々、而宜祈其国家荣盛於億万斯年、不可必怠慢因畀免簡、切須奉勤者也。

大中寺

文政十一戊子年 安山（印）

六月廿二日

龍穩寺

道海（印）

總寧寺

寿山（印）

加州金沢

鶴林寺

## 六、三法幢地「壁書」・「定」・「掟」

### 【史料33】 總寧寺光紹智堂壁書

寛文二年（一六六二）七月十六日、雲松院（神奈川県横浜市）宛（『武蔵国小机臥龍山雲松院史』一三三～一三四頁、一部句読点を改めた）

一、九旬内、不放出外不放入、禁足安居<sup>而</sup>、朝参暮請、護心城、可追慕先聖古風事。

一、両役寮出外、於諸寮舎、不可用灯燭<sup>并</sup>香炉之火事。

一、競聚役寮炉辺長座、口喃<sup>而</sup>今地、毀誉自佗磨人我鋒虚、不可逆光陰事。

一、企私用、或構虚病、怠墮勤行・掃除等、或不請役寮暇、猥不可令佗行・佗宿勿論、肆乱走・独歩制禁之事。

一、久住者、翫飯、則淡飯一汁一菜<sup>而</sup>、可用建溪風味。酒、是古仏所誠也。況以不可私用、<sup>并</sup>座頭舞楽等、<sup>總而</sup>可為無用事。

右旨、違背禅侶於有之、急可催起单者也。

茲時寛文二<sup>壬寅</sup>歴結夏日 總寧寺

光紹（印）

貼在 雲勝院<sup>（松）</sup>

壁間

### 【史料34】 関三利常恒会地定

元禄六年（一六九三）三月四日、功山寺宛（免牘一四）

定

一、九旬結衆、五十人之事。

一、首座導儀、三十人之事。

一、首座出銀、五兩之事。

右之条、堅相守、夏冬結制無怠慢、如法可執行者也。

總寧寺

融峰(印)

元祿六<sup>癸酉</sup>三月四日 大中寺

石牛(印)

龍穩寺

月峯(印)

長州府中

功山寺

【史料35】 関三刹常恒会地免牘

天明五年(一七八五)六月十日、洞寿院宛(免牘  
六五)

免牘

一、将来夏冬、常法幢之事。

一、永平家訓、旧規則之事。

一、首座寮資金、五兩之事。

一、首座導誼、三十人之事。

一、九旬結衆、五十人之事。

右、這回遂品評、令免許之条、永世嚴守之、無怠慢可執行者也。

天明五乙巳年 大中寺

六月十日 大耕(印)

龍穩寺

宏隆(印)

總寧寺

探牛(印)

江州菅並

洞寿院

【史料36】 関三刹片法幢地掟写

天明八年(一七八八)四月、州伝寺(福島県田  
村郡三春町)宛(免牘三二三)

掟

一、方丈導誼、二十五人之事。

一、首座導誼、三十五人之事。

一、首座法臘、宜遵守 朱璽憲章事。

一、首座寮資金、五両之事。

一、会中供養之弁營、雖有檀施余剩、準旧制可專質淡事。

一、会中勤行等、純随先聖之家訓、參禪弁道、不可怠慢之事。

一、会中衆徒、不可論自他之是非、可如法安居。若有破

法者、可紀罰事。

一、平常漂泊市廛、或好樂異風僧侶、不可許容掛塔事。

右条々、師学可嚴守之。若違犯之徒者、依法可罪科者也。

大中寺

天明八戊申年 貞須 印

四月

龍穩寺

宏隆 印

總寧寺

円宗 印

奥州三春

州伝寺

【史料37】 関三刹随意会地提写

寛延四年（一七五二）閏六月十九日、温泉寺

（長野県下高井郡山ノ内町）宛（免牘四五）

掟

一、随会結制、禁足安居、可準仏祖之行履事。

一、坐禪・念經・布薩・念誦、可準高祖之常法事。

一、上堂・小參・法門・商量、可準宗門之規則事。

一、參禪・学道・講經・說禪、準祖師之用心事。

一、粥飯・茶湯・斷葷・禁酒、可準仏門之制律事。

上件之外、遵于永平之古規、須勤修。若有不從憲章者、

衆評之上、依法可治罰者也。

寛延四<sub>辛未</sub>年

龍穩寺

閏六月十九日 良鶴 印

大中寺

越宗 印

總寧寺

壺春 印

信濃国横湯

温泉寺

明治二年（一八六九）三月、種徳院（栃木県佐野市）宛（免牘三三一）

下野州

種徳院

【史料38】 龍穩寺文山闡明（？）一八六六）掟

安政二年（一八五五）、随流院（神奈川県横浜  
市）宛（『武蔵国小机臥龍山雲松院史』一一八〇頁、  
一部句読点を改めた）

結制海衆、須遵先規、専弁道・参禅。若有恣意、不從憲

章者、達于此間受指揮、依法可治罰焉。

龍穩寺

安政二<sup>乙</sup>卯年夏安居日 闡明

随流院

当寺常法幢会事、依先續、這回更改任之。向後、謹仰

大政復古之命令、專遵

宗祖垂範之家訓、嚴建法幢、宗規回興、教化諸民、以

補贊 王道、永可奉報

国恩、兼法恩者也。苟且戾制約、有犯規轍、則責可立至  
矣。仍証之以状畢。

永平寺（印）

明治二年  
己巳三月 臥雲（版刻花押）

【史料40】 免牘再申請願書

明治三年（一八七〇）九月、龍穩院（福島県田  
村郡三春町）より總持寺宛（明治期史料四四）

七、明治期発給「免牘」、免牘願書

【史料39】 臥雲童龍（一七九六～一八七二）常恒会地免牘

以書付奉願上候

拙寺儀、峨山和尚法嗣、月泉和尚開闢、而慶安五辰年、

兩御本山并<sup>ニ</sup>関三箇寺<sup>ヨリ</sup>蒙録役。寛保元酉年、関三箇寺<sup>ヨリ</sup>

請隨意会免牘。明和八卯年、法事会免章、被下置。天

保三辰年、蒙常会格、無怠慢転法輪来候所、今般、依

勅裁、宗綱御復古被為在候折柄、従前之通、御免牘拝裁

被為 仰付被下置候様、奉懇願候。以上。

磐城国田村郡三春

明治三<sup>庚</sup>午年

龍穩院

九月

鉄岩

大御本山

御役局

王化、俯福群黎、若犯制約、必有嚴譴。

總持寺（印）

明治三庚午年

奕堂（版刻花押）

九月廿二日

東京

長谷寺

【史料42】 久我環溪（一八一七～一八八四）・諸岳奕堂常

恒会地免牘

明治五年（一八七二）九月、常泉寺（富山県魚

津市）宛（免牘二九六）

【史料41】 諸岳奕堂（一八〇五～一八七九）常恒会地免牘

越中

明治三年（一八七〇）九月二十三日、長谷寺

常泉寺

（東京都港区）宛（免牘二七二）

依先格、可常恒会。

永平寺（印）

明治五年  
壬申十月 環溪（版刻花押）

其寺、宗門一方望刹常恒会之事、既檢先帖、更可襲任。

總持寺（印）

将来、革弊欽奉維新之

奕堂（版刻花押）

その他典拠	寺格変更	その他典拠・寺格変更詳細、備考
元禄2年?		「諸遁ち官府に稽請して、始めて冬夏両回の恒制を結ぶ」(『寛巖禪師行業記』、原漢文)、元禄2年に亘山より雲衲の派遣を受ける(『亘山広録』49、「亘山年譜」)
寛文8年?		「寛文八年、廿二代丹山和尚願常法幢廻蒙允、許冬夏無怠」(『可睡齋起立并開山中興之由來略記』(『可睡齋資料集』1、5頁))
元禄9年2月26日		本光寺文書(片柳茂編『本光寺文書』14頁)
元禄10年冬		『長林伝灯録』(『曹洞宗全書』史伝上623頁)
	(元禄8～9年頃 〈五院輪住969〉)	
元禄年間(免牘359)		元治元年7月の火災で焼失したため、慶応元年閏5月12日に再発行を受ける(免牘359)
元禄7年		『茨城県曹洞宗寺院誌』113頁
元禄8年3月8日		『永平寺史料全書』文書編3巻№10
元禄10年		『新版角川日本地名大辞典』管天寺項
元禄6年4月28日		文化財6大中寺文書21
元禄4年4月27日		『龍淵寺年代記』所収文書(『武州龍淵寺史料』27頁)
元禄6年4月28日		豪徳寺文書(『豪徳寺—文化財総合調査報告—』230頁)
元禄6年3月15日(定)		文化財6松月院文書24
元禄12年9月22日		『新編埼玉県史』資料編18、長泉寺文書26(501頁)
元禄16年		『埼玉県教育史』2に元禄16年2月22日付の願書を掲載
元禄13年9月18日		文化財6能仁寺文書22、『新編埼玉県史』資料編18、能仁寺文書9(530頁)
宝暦11年7月11日		『永平寺史』(985～986頁)所収文書
天明5年6月11日	宝暦11年12月23日	『埼玉県寺院聖教文書遺品調査報告書』Ⅰ、養寿院文書5、随意会：同前養寿院文書1
元禄5年7月23日(定)		文化財6東昌寺文書23(『そうわの寺院』Ⅱ、東昌寺文書17、141頁)
正徳4年7月5日	元禄13年7月23日	文化財6勝胤寺文書15、関三利は5月3日(文書14)、随意会：文化財6勝胤寺文書10
天明5年11月13日	延享5年3月11日	文化財6清源院文書76、『厚木市史』近世資料編(1)(817～821頁)
元禄5年3月16日		文化財6真如寺文書20
元禄5年3月10日		文化財6長安寺文書9
元禄年間(晃全代)		「年中記録」(永平寺文書、駒澤大学図書館請求記号：H115/123-9/1)によれば、晃全が発行した免牘が盗まれたため、明和3年10月に再発行を申請
元禄5年9月18日		文化財6宝積寺文書13
		鳳仙寺に元禄6年1月16日付「奉願常法幢之事」あり(群馬県文書館目録検索に依る)



# 三法幢地免牘関係資料集

通番	五院輪住969	享和寺格	寺格変更	派名	国名	村名	寺院名	總持寺史	鶴見・祖院目録
1	常001	常恒会地		永平派	越前	志比	永平寺	?	
2	常015	常恒会地		了庵派	下総	国府台	總寧寺	寛文8年2月15日	寛文8年2月15日(免牘7、由緒13)
3	常016	常恒会地		了庵派	武蔵	越生	龍穩寺	寛文8年2月15日	寛文8年2月15日(免牘7、由緒13)
4	常017	常恒会地		了庵派	下野	富田	大中寺	寛文8年2月15日	寛文8年2月15日(免牘7、由緒13)
5	常012	常恒会地		太源派	遠江	久野	可睡斎	?	
6	常040	常恒会地		天真派	下野	宇都宮	成高寺	?	(元禄6年頃〈五院輪住969〉)
7	常056	常恒会地		了庵派	下野	戸奈良	種徳院	?	(元禄10年頃〈五院輪住969〉)
8	常053	常恒会地		天真派	下野	栃本	本光寺	?	元禄9年2月26日(免牘339)
9	常085	常恒会地		了庵派	下野	鹿沼	瑞光寺	元禄6年4月28日	
10	常048	常恒会地		了庵派	下野	茂木	能持院	元禄7年3月6日	
11	常058	常恒会地		了庵派	下野	足利	長林寺	?	
12	常052	常恒会地		了庵派	下野	加園	興源寺	元禄6年4月	元文3年9月10日(免牘40)
13	常038	常恒会地		了庵派	常陸	下妻	多宝院	元禄年間	(元禄5～6年頃〈五院輪住969〉)
14	常046	常恒会地		了庵派	常陸	真壁	伝正寺	元禄3年4月	(元禄7年頃〈五院輪住969〉)
15	常047	常恒会地		了庵派	常陸	戸崎	松学寺	?	
16	常080	常恒会地		了庵派	常陸	杉室	大雄院	元禄5年9月11日	
17	常087	常恒会地		了庵派	常陸	久下田	芳全寺	元禄6年4月28日	元禄6年4月28日(免牘393)
18	常054	常恒会地		了庵派	常陸	江戸崎	管天寺	元禄10年3月8日	
19	常090	常恒会地		了庵派	武蔵	貝塚	青松寺	?	元禄6年4月21日(免牘304)
20	常091	常恒会地		了庵派	武蔵	芝高輪	泉岳寺	?	
21	常089	常恒会地		了庵派	武蔵	橋場	総泉寺	?	元禄6年4月28日(免牘145)
22	常018	常恒会地		天真派	武蔵	成田	龍淵寺	?	
23	常030	常恒会地		了庵派	武蔵	駒込	吉祥寺	?	(元禄5年頃〈五院輪住969〉)
24	常088	常恒会地		了庵派	武蔵	渋谷	長谷寺	?	(元禄6年頃〈五院輪住969〉)
25	常055	常恒会地		了庵派	武蔵	聖坂	功運寺	?	(元禄10年頃〈五院輪住969〉)
26	常096	常恒会地		了庵派	武蔵	世田谷	豪徳寺	?	
27	常039	常恒会地		了庵派	武蔵	赤坂	松月院	?	
28	常060	常恒会地		了庵派	武蔵	骨波田	長泉寺	元禄12年9月22日	
29	常065	常恒会地		了庵派	武蔵	大成	普門院	?	
30	常068	常恒会地		了庵派	武蔵	加治	能仁寺	?	
31	常103	常恒会地		了庵派	武蔵	深川	靈雲院	宝暦11年7月15日	
32	常恒会地	随意会地	太源派	武蔵	川越	養寿院	天明5年7月18日		
33	常020	常恒会地		了庵派	上野	山王山	東昌寺	?	元禄4年11月7日(明治期資料3)
34	常070	常恒会地	随意会地	了庵派	下総	佐倉	勝胤寺	正徳4年7月5日	
35	常034	常恒会地		了庵派	相模	津久井	功雲寺	?	元禄5年9月11日(免牘13)
36	常026	常恒会地		了庵派	相模	早川	海蔵寺	?	(元禄5年頃〈五院輪住969〉)
37	常恒会地	片法幢地	了庵派	相模	三田	清源院	天明5年11月13日	天明5年11月13日(免牘152)	
38	常027	常恒会地		了庵派	上総	真里谷	真如寺	?	
39	常024	常恒会地		了庵派	安房	本織	延命寺	?	元禄5年3月20日(免牘324)
40	常025	常恒会地		了庵派	安房	吉保	長安寺	?	
41	常019	常恒会地		了庵派	上野	白井	双林寺	元禄4年8月17日	元禄4年(明治期資料659)
42	常028	常恒会地		天真派	上野	後閑	長源寺	明和3年10月18日	(元禄5年頃〈五院輪住969〉)
43	常035	常恒会地		了庵派	上野	小幡	宝積寺	元禄5年9月18日	
44	常032	常恒会地		了庵派	上野	南蛇井	最興寺	寛延2年3月	(元禄5年頃〈五院輪住969〉)
45	常037	常恒会地		了庵派	上野	館林	茂林寺	元禄5年9月18日	元禄5年9月22日(免牘336)
46	常082	常恒会地		了庵派	上野	室田	長年寺	元禄6年5月8日	
47	常086	常恒会地		了庵派	上野	箕輪	龍門寺	元禄6年5月8日	
48	常051	常恒会地		了庵派	上野	館林	普濟寺	元禄8年3月5日	元禄8年3月5日(免牘338)
49	常029	常恒会地		了庵派	上野	沼田	龍華院	元禄5年5月5日	元禄5年5月5日(明治期資料38)
50	常036	常恒会地		法王派	上野	伊勢崎	天増寺	?	(元禄5年頃〈五院輪住969〉)
51	常084	常恒会地		了庵派	上野	桐生	鳳仙寺	元禄6年4月28日	元禄6年4月28日(免牘337)
52	常083	常恒会地		了庵派	上野	御嶽	永源寺	元禄6年4月28日	元禄6年4月28日(由緒7)
53	常050	常恒会地		了庵派	上野	館林	善長寺	元禄8年2月28日	元禄8年2月26日(免牘395)

その他典拠	寺格変更	その他典拠・寺格変更詳細、備考
元禄6年4月28日		文化財6孝顕寺文書11
元禄10年		『曹洞宗福島県北寺院世代名鑑』興国寺項「沿革」 関三利「定」は2月23日（免牘18）
元禄5年9月18日		文化財7林泉寺文書5 免牘22では元禄10年11月17日
元禄7年		『日本歴史地名大系』顕聖寺文書
元禄6年9月25日		文化財7瑞龍寺文書18、文化財6大中寺文書21では元禄6年8月25日
宝永6年		『日本歴史地名大系』光厳寺項
元禄6年10月23日		文化財7貞祥寺文書15
元禄7年3月25日		文化財7海応院文書29（2）、文化財6双林寺文書20
延宝2年2月28日		文化財7大乘寺文書14
享保11年10月16日（定、免牘36）		免牘37は總持寺五院が、免牘36は関三利が発給したもの
元禄5年4月（定）		文化財6長生寺文書22
元禄5年4月（定）		文化財6長生寺文書22
元禄5年4月（定）		文化財6長生寺文書22
元禄12年3月22日		文化財6大中寺文書23
元文1年10月3日		文化財8可睡斎文書89（1）、文化財7永光寺文書43に関連資料あり
元禄6年6月5日		文化財6双林寺文書18
元禄7年3月25日		文化財6双林寺文書19
享保10年3月26日		定津院文書（同寺紹介パンフレットに写真掲載）
寛保2年9月4日	享保2年3月23日	文化財8龍泰寺文書17、随意会：文化財8龍泰寺文書11
寛文6年夏以前？		「当山常法幢、自寛文六年丙午夏至元禄六年癸酉夏、凡二十八年五十六会同相統」 （『宇治興聖寺文書』1、文書164）
	元禄4年8月16日	延宝：總持寺五院より永沢寺及び永沢寺後見三寺（円通寺・洞光寺・景福寺）宛、元禄：文化財5永沢寺文書9、関三利より
明和2年1月24日	元禄15年8月3日	関三利「定」は明和元年閏12月9日（B324・文化財6大中寺文書49）、随意会：『奥の正法寺—正法寺総合調査報告書—』文書25
明和7年9月11日		『永平寺年表』150頁、文化財2長泉寺文書2の文政11年8月22日は、焼失したため再発行を受けた年
享保2年10月（定）		文化財4景福寺文書30
享保5年9月3日		文化財5清涼寺文書23
	元禄9年1月16日	随意会：文化財5洞寿院文書36、免牘6は壁書、関三利「定」は天明5年6月10日（免牘65）
天明5年11月	享保8年	『曹洞宗全書』大年表401、506頁
延享1年12月4日		『永平寺年表』137頁
元禄6年3月4日（定、免牘14）		
元禄6年9月3日（定）		文化財4瑠璃光寺文書18
元禄6年3月23日（定）		『關雲志』上94頁所収文書

三法幢地免牘關係資料集

通番	五院輪住969	享和寺格	寺格変更	派名	国名	村名	寺院名	總持寺史	鶴見・祖院目錄
54	常094	常恒会地		了庵派	武藏	川越	孝顯寺	元禄6年夏	
55	常031	常恒会地		太源派	陸奥	仙台	輪王寺	?	元禄5年6月12日(免牘11)
56	常095	常恒会地		了庵派	陸奥	白川	関川寺	元禄6年4月28日	元禄6年5月28日(免牘15)
57	常042	常恒会地		了庵派	陸奥	須賀川	長禄寺	?	元禄7年2月23日(免牘17)
58	常057	常恒会地		太源派	陸奥	梁川	興国寺	?	元禄10年3月(明治期資料44)
59	常045	常恒会地		通幻派	陸奥	二本松		元禄7年3月5日	元禄7年3月5日(法度・掟1)
60	常067	常恒会地		了庵派	出羽	秋田	天徳寺	?	宝永5年3月21日(免牘27)
61	常014	常恒会地		了庵派	出羽	米沢	林泉寺	?	天正年中(明治期史料28)
62	常081	常恒会地		了庵派	越後	高田	林泉寺	元禄5年9月18日	
63	常059	常恒会地		了庵派	越後	北条	普広寺	元禄10年11月7日	元禄10年11月7日(免牘325)
64	常049	常恒会地		了庵派	越後	保倉谷	顯聖寺	元禄7年7月11日	元禄7年10月11日(明治期資料4)
65	常066	常恒会地		了庵派	越後	高田	乘国寺	宝永2年12月11日	宝永2年12月11日(免牘304)
66	常098	常恒会地		通幻派	越中	高岡	瑞龍寺	?	
67	常069	常恒会地		天真派	越中	富山	光嚴寺	?	宝永6年9月11日(免牘29、314)
68	常041	常恒会地		信濃	前山		貞祥寺	?	元禄6年10月23日(免牘16)
69	常044	常恒会地		了庵派	信濃	小諸	海心院	?	
70	常013	常恒会地		永平直末	加賀	金沢	大乘寺	?	
71	常097	常恒会地		通幻派	加賀	金沢	宝円寺	元禄6年8月23日	
72	常078	常恒会地		了庵派	加賀	金沢	天徳院	享保11年10月16日	享保12年4月8日(免牘37)
73	常021	常恒会地		了庵派	甲斐	中山	広嚴院	?	
74	常022	常恒会地		了庵派	甲斐	古府中	大泉寺	?	元禄5年3月21日(免牘10、334、390)
75	常023	常恒会地		了庵派	甲斐	積翠寺	興因寺	?	元禄5年3月21日(免牘9、335)
76	常062	常恒会地		了庵派	甲斐	上宮地	伝嗣院	?	元禄12年3月22日(免牘26)
77	常079	常恒会地		永光末	甲斐	小林	南明寺	?	元禄5年9月11日(免牘12)
78	常064	常恒会地		了庵派	甲斐	上曾根	龍華院	?	(元禄12~16年頃〈五院輪住969〉)
79	常063	常恒会地		了庵派	甲斐	落合	永昌院	?	
80	常100	常恒会地		總持直末	能登	酒井	永光寺	?	
81	常092	常恒会地		天真派	信濃	松代	長国寺	元禄6年6月5日	
82	常043	常恒会地		了庵派	信濃	駒沢	大澤寺	元禄7年3月25日	元禄7年3月25日(免牘263)
83	常076	常恒会地		了庵派	信濃	根津	定津院	?	
84	常077	常恒会地		總持直末	美濃	今須	妙心寺	?	享保11年9月16日(B310)
85	常102	常恒会地	随意会地	了庵派	美濃	関	龍泰寺	寛保2年9月4日	寛保2年9月14日(免牘43)
86	常074	常恒会地		通幻派	伊勢	津	四天王寺	享保7年3月18日	
87	常010	常恒会地		永平直末	山城	宇治	興聖寺	?	
88	常061	常恒会地		通幻派	山城	八幡	神心寺	?	元禄12年6月4日(免牘25)
89	常071	常恒会地		了庵派	摂津	大坂	鳳林寺	正徳4年7月5日	正徳4年7月5日(免牘305)
90	常009	常恒会地		通幻派	丹波	青野原	永沢寺	?	延宝7年6月5日(法度・掟027-2)
91	常106	常恒会地	随意会地	無底派	陸奥	石黒	正法寺	?	明和2年1月24日(B325)
92	常107	常恒会地		了庵派	陸奥	角田	長泉寺	?	
93	常072	常恒会地		通幻派	因幡	鳥取	景福寺	?	享保2年10月18日(免牘32、341)
94	常073	常恒会地		了庵派	近江	彦根	清凉寺	?	
95	随010	常恒会地	随意会地	太源派	近江	菅並	洞寿院	?	天明5年7月25日(免牘66)
96		常恒会地	随意会地	太源派	若狭	小浜	空印寺	?	
97	常011	常恒会地		石屋派	薩摩	鹿児島	福昌寺	?	
98	常101	常恒会地		石屋派	薩摩	鹿児島	南林寺	?	
99	常003	常恒会地		石屋派	長門	深川	大寧寺	?	
100	常008	常恒会地		石屋派	長門	長府	功山寺	?	天和2年4月11日(掟、免牘8、389)
101	常004	常恒会地		石屋派	周防	長穂	龍文寺	?	
102	常005	常恒会地		石屋派	周防	山口	瑠璃光寺	?	
103	常006	常恒会地		石屋派	周防	鳴滝	泰雲寺	元禄6年3月23日	

その他典拠	寺格変更	その他典拠・寺格変更詳細、備考
		「曹洞宗由緒」に18世元山恵光(?～1704)代に常恒会地とあり(『佐賀県近世史料』第10編第2巻、8頁)、先代は元禄4年退院
享保20年10月5日		『唯臺寺誌』167頁に写真掲載
天明5年		「御城下金剛山宗龍寺伝記写」(『佐賀県近世史料』第10編第2巻、202頁)
宝暦9年7月10日		『県内主要寺院歴史資料調査報告書』(二)(熊本市～城南地区)資料編129頁
天明5年7月18日		文化財4定林寺文書7
	寛延4年9月	随意会：文化財可睡斎文書89(8)、『可睡斎史料集』1、156頁、B307は常恒会・随意会共に収録と思われる
天明5年11月5日	寛延4年閏6月(免牘51)	文化財4円通寺文書8、随意会：文化財3円通寺文書5
天明7年10月6日	寛延4年	『曹洞宗全書』大年表448、508頁、文化財6観音院文書1に申請書あり
元禄5年9月11日		『龍海院座主要古記録』、『是字寺龍海院誌』193頁
延享4年7月24日		文化財2報恩寺文書41、文化財8可睡斎文書89(7)、『可睡斎史料集』1、155頁
延享5年6月		愛知学院大学図書館編「正眼寺文書目録」整理番号2151号、2152号文書
宝暦11年2月		文化財5景福寺文書2
	享保年間(總持寺史)	
		「州伝寺片法幢会昇格ニ付提書」(免牘89)あり
	宝暦3年7月頃	文化財3定光寺文書13では随意会地の申請書
	宝暦3年4月5日	随意会：文化財7観音寺文書14、明和6年10月3日に永世法事会を兼ねる(文化財7観音寺文書27、『總持寺史』)
	天明6年	片法幢地免牘中の文言「是以天明丙午載、現住仙海長老、繼歴代之素志、来懇来随意会、会下称号、而不措也」に依る
天明8年11月2日		文化財4清光院文書28、五院輪住969③④⑤では随092の位置に再出するも重複しているため省略した
天明8年	宝永2年3月27日(B286)	『永谷烈祖伝』(『続曹洞宗全書』寺誌、457頁)
	明和5年11月晦日(免牘348、400)	
寛延1～3年頃	明治3年8月寺格返上届あり(免牘267)	文化財5陽松庵文書20に申請書あり
元禄5年		『新版角川日本地名大辞典』光明寺項
元禄7年		『日本歴史地名大系』円福寺項
宝永3年?		宝永3年「[随意会御免牘寄付記名]」、享保6年「会下号御免牘請求ニ付左ノ志当寺祠堂日牌月杯受納帖」(雲祥寺文書)があるため、この頃に寺格昇格が行われた可能性あり(『埼玉県寺院聖教文書遺品調査報告書』I・351頁)
		文政6年2月23日に会下称号を兼ねる

# 三法幢地免牘関係資料集

通番	五院輪住969	享和寺格	寺格変更	派名	国名	村名	寺院名	總持寺史	鶴見・祖院目録
104	常007	常恒会地		大乘末	周防	鱒山	禪昌寺	?	
105	常075	常恒会地		通幻派	安芸	広島	国泰寺	?	享保9年4月23日(定、免牘328)
106	常093	常恒会地		石屋派	肥前	佐賀	高伝寺	?	(元禄6年頃〈五院輪住969〉)
107	常099	常恒会地		無著派	肥前	長崎	皓台寺	享保20年10月5日	
108		常恒会地		石屋派	肥前	佐賀	宗龍寺	?	
109	常105	常恒会地		法王派	肥後	川尻	大慈寺	宝曆9年7月10日	
110		常恒会地		了庵派	備中	松山	定林寺	天明5年7月18日	天明5年7月18日(免牘95)
111	常002	常恒会地		無著派	豊後	浦辺	泉福寺	?	
112		常恒会地	随意会地	石屋派	讃岐	高松	見性寺	天明5年8月	天明5年7月(B307)
113	随073	常恒会地	随意会地	大乘末	備中	玉島	円通寺	天明5年11月5日	天明5年11月5日(免牘95)
114	随076	常恒会地	随意会地	石屋派	肥後	天草	東向寺	天明7年11月16日	
115	常033	常恒会地		太源派	上野	前橋	龍海院	?	元禄5年9月11日(免牘201)
116		片法幢地		通幻派	陸奥	盛岡	報恩寺	延享4年7月24日	
117		片法幢地		通幻派	尾張	名古屋	万松寺	?	
118		片法幢地		了庵派	武蔵	芝伊皿子	大門寺	?	
119		片法幢地		太源派	越後	上田	雲洞庵	?	
120		片法幢地		通幻派	石見	津和野	永明寺	?	
121		片法幢地		通幻派	陸奥	南部	法光寺	延享1年9月3日	
122		片法幢地		通幻派	播磨	姫路	景福寺	?	
123		片法幢地		通幻派	美濃	大垣	全昌寺	安永4年6月16日	享保11年9月16日(B310)
124		片法幢地	随意会地	了庵派	相模	田代	勝楽寺	天明5年12月	天明5年12月(免牘154)
125		片法幢地		了庵派	下総	結城	孝顯寺	天明6年2月	
126	随094※	片法幢地	随意会地	了庵派	陸奥	三春	州伝寺	天明8年4月	天明8年4月(免牘91、71〈掟〉)
127	随066	片法幢地	随意会地	石屋派	伯耆	和田	定光寺	?	寛政1年12月(免牘81)
128		片法幢地		無著派	肥前	唐津	龍源寺	天明8年2月	
129	随031	片法幢地	随意会地	了庵派	越後	沢海	大栄寺	天明8年11月	天明8年11月(免牘77、79)
130		片法幢地	随意会地	通幻派	越後	柏崎	香積寺	寛政2年6月	寛政2年6月(免牘88)
131	随071	片法幢地		天真派	出雲	松江	清光院	?	
132	随068	片法幢地	随意会地	天真派	丹波	御油	円通寺	宝永2年3月27日	天明8年4月(免牘75)
133	随064	片法幢地	随意会地	通幻派	加賀	金沢	桃雲寺	?	寛政2年4月(免牘402、403)
134	随047	片法幢地		了庵派	越前	福井	孝顯寺	?	
135	随042	随意会地		了庵派	武蔵	江戸四谷	天龍寺	享保6年2月16日	
136		随意会地		了庵派	武蔵	牛込	宗参寺	?	寛延3年(免牘267)
137	随084	随意会地		了庵派	武蔵	深川	増林寺	宝曆8年9月23日	
138		随意会地		了庵派	武蔵	青梅	天享寺	明和4年11月9日	
139	随008	随意会地		了庵派	武蔵	秩父	光明寺	?	
140	随009	随意会地		了庵派	武蔵	西ノ台	円福寺	元禄7年	
141	随011	随意会地		太源派	武蔵	鳩ヶ谷	法性寺	?	
142	随013	随意会地		了庵派	武蔵	上会下	雲祥寺	元禄16年3月4日	
143	随026	随意会地		了庵派	武蔵	三田	海禅寺	宝永5年1月16日	
144		随意会地		了庵派	武蔵	桐田	高乗寺	宝永6年3月23日	
145	随033	随意会地		太源派	武蔵	小渕	淨春院	正徳3年3月23日	正徳3年3月23日(免牘293、明治期資料44)
146	随034	随意会地		了庵派	武蔵	柚木	永林寺	?	

その他典拠	寺格変更	その他典拠・寺格変更詳細、備考
享保9年		『曹洞宗全書』寺誌420頁、大年表402頁、文化財6広見寺文書44に申請書あり
明和5年4月12日		『新編埼玉県史』資料編18所収、迦葉院文書10（389頁）
享保10年5月23日		「古記之録写：祖山書役扣」（永平寺文書、駒澤大学図書館請求記号：H115/123-8/1）
元禄13年8月23日		文化財7長国寺文書25、宝暦6年12月16日に会下称号を兼ねる（免牒289）
		「鉄牛」代に随意会地となる（『幽谷余韻』4、『続曹洞宗全書』寺誌290頁）
寛延4年閏6月16日		文化財8可睡斎文書89（11）、文化財7温泉寺文書4
明和3年12月18日？	天保12年2月29日	その他典拠：文化財6双林寺文書80、寺格変更：文化財7長国寺文書55、『總持寺史』
宝暦3年6月11日		文化財7観音寺文書17、同前文書12・41により、寛政2年に法事会の追加免許を得たものか
享保7年		『日本歴史地名大系』英林寺項
享保8年4月23日		文化財7耕雲寺文書23、『霊樹山耕雲寺六百年誌』624頁に翻刻掲載
		随意会、会下称号、三年或四年毎
		免牒を受けた際は姫路に所在、後に現在地に移転
		文化財5陽松庵文書20に申請書あり
寛延2年7月3日	天保2年9月29日 （免牒288）	文化財7種月寺文書33
宝暦12年閏4月6日		文化財6双林寺文書77
享保12年9月3日		文化財3天祐寺文書1
享保年間頃？		9世大龍渭川（？～1737）代に随意会地となる（『筑前玉林寺上梁銘並引』、『曹洞宗全書』寺誌406頁）
		五院輪住969③⑤にはナシ、①④により補う
明和3年2月26日		『曹洞宗報』984洞泉寺文書4
	天保3年6月25日 （免牒119）	準常恒会は「法幢八会於十年間」、元は随意会・祈禱会
明和3年3月26日		文化財2永泉寺文書1、文化財6大中寺文書50、『秋田県に於ける曹洞宗史の研究』108頁に翻刻掲載
元禄7年8月16日（免牒21）		B699（掟）、免牒326（裏書）は弘化3年9月23日
正徳2年10月13日		文化財2泰心院文書2、文政2年に、2年に1回随意会または法事会を行えるよう変更（免牒31）
	文政12年5月23日 （免牒115）	
正徳2年10月3日		
明和8年12月23日（法事会）	天保3年12月16日 （『總持寺史』）	法事会：免牒62、文化財7雲洞庵文書174

### 三法幢地免牘関係資料集

通番	五院輪住969	享和寺格	寺格変更	派名	国名	村名	寺院名	總持寺史	鶴見・祖院目録
147	随036	随意会地		了庵派	武蔵	小室	松福寺	?	正徳4年(明治期資料715)
148	随053	随意会地		無底派	武蔵	秩父	広見寺	?	享保9年1月23日(明治期資料8)
149	随057	随意会地		了庵派	武蔵	秩父	清泉寺	?	
150		随意会地		了庵派	武蔵	府中	高安寺	寛延3年3月23日	寛延3年3月23日(免牘345)
151		随意会地		了庵派	武蔵	本庄宿	安養院	宝暦11年5月16日	
152		随意会地		了庵派	武蔵	小山田	大泉寺	宝暦12年8月23日	
153		随意会地		峨山派	武蔵	西大輪	迦葉院	明和5年4月12日	
154	随024	随意会地		了庵派	上野	山上	龍源寺	?	
155	随055	随意会地		了庵派	上野	菅原	陽雲寺	享保10年5月23日	
156	随018	随意会地		太源派	信濃	飯田	玄照寺	?	元禄13年8月23日(免牘289)
157	随019	随意会地		了庵派	信濃	余地	自成寺	?	元禄14年1月23日(免牘16)
158	随043	随意会地		了庵派	信濃	耳取	玄江院	?	享保6年3月3日(免牘16)
159	随069	随意会地		了庵派	信濃	松代	大林寺	?	
160		随意会地		總持直末	信濃	大町	靈松寺	?	
161	随072	随意会地		了庵派	信濃	横町	温泉寺	?	寛延4年閏6月16日(免牘45)
162		随意会地	準常恒会	太源派	信濃	松本	全久院	文政11年3月9日 (会下称号)	
163	随030	随意会地		了庵派	越後	草水	観音寺	宝永年間	寛政2年3月(免牘85)
164	随044	随意会地		了庵派	越後	村松	英林寺	?	
165	随045	随意会地		太源派	越後	村上	耕雲寺	享保8年4月23日	
166	随058	随意会地		太源派	越後	滝谷村	慈光寺	?	享保11年2月(免牘35、由緒12)
167	随046	随意会地		石屋派	越後	与板	徳昌寺	享保8年5月23日	
168	常104	随意会地		了庵派	越後	高田	瑞峰寺	享保14年9月3日	享保14年9月3日(免牘340)
169	随063	随意会地		了庵派	越後	高田	光栄寺	寛保2年9月3日	寛保2年8月3日(免牘344)
170		随意会地		天真派	越後	新発田	宝光寺	寛延1年10月16日	寛延1年10月16日(免牘5)
171		随意会地	準常恒会	太源派	越後	弥彦	種月寺	寛延2年7月3日	寛延2年7月3日(免牘288)
172		随意会地		法王派	越後	長岡	長興寺	?	
173		随意会地		了庵派	越後	荷比	曹源寺	?	宝暦12年5月3日(免牘347)
174		随意会地		大乘末	越後	至徳寺村	徳泉寺	明和4年6月3日	
175	随032	随意会地		石屋派	肥前	諫早	天祐寺	?	
176	随035	随意会地		無著派	肥前	亀井	玉林寺	?	
177	随091	随意会地		太源派	肥前	松浦	瑞雲寺	明和6年(法事会)	
178		随意会地		石屋派	肥前	蓮池	宗眼寺	?	
179		随意会地		無著派	肥後	天草	国照寺	?	
180	随086	随意会地		通幻派	筑前	福岡	安国寺	?	天明8年4月(B313)
181	随090※	随意会地		石屋派	筑前	福岡	金龍寺	天明8年(永世法事会)	天明8年4月(B313)
182		随意会地		石屋派	豊後	森	安楽寺	?	
183	随082	随意会地		石屋派	豊後	跡田	羅漢寺	宝暦9年3月8日	
184		随意会地		通幻派	周防	岩国	洞泉寺	明和3年2月26日	
185	随016	随意会地	準常恒会	了庵派	出羽	庄内	總穩寺	寛延1年10月	
186	随006	随意会地		太源派	出羽	亀田	龍門寺	?	
187		随意会地		峨山派	出羽	本庄	永泉寺	?	
188	随005	随意会地		太源派	出羽	山ノ神	寿仙寺	弘化3年9月23日	元禄11年9月5日(免牘326)
189	随020	随意会地		太源派	陸奥	仙台	泰心院	正徳2年10月3日	正徳2年10月13日(免牘30)
190		随意会地	準常恒会	太源派	陸奥	仙台	松音寺	文政12年(永世祈禱会)	明和6年8月29日(免牘56)
191	随021	随意会地		太源派	陸奥	仙台	昌伝庵	正徳2年10月3日	文化3年11月8日(免牘100)
192	随062	随意会地	準常恒会	總持直末	陸奥	三春	龍穩院	寛延1年秋会下称号 五歳一会	寛保1年9月16日(免牘41)

その他典拠	寺格変更	その他典拠・寺格変更詳細、備考
明和2年		『新版角川日本地名大辞典』頭陀寺項 『祠曹雑識』では大祥寺と永建寺の間にあり、文化6年10月16日に「随意会与法事会隔歳一会」へ変更(免牘101)
宝暦11年2月(申請書)		文化財7永建寺文書24、「宝暦丑年住当山、明年辛丑随意会・会下称号、永世法事会」(『曹紹山歴住伝灯録』、『続曹洞宗全書』史伝、414頁)
享保14年1月28日		文化財7龍泉寺文書20、文化財7龍泉寺文書49に安政6年4月の文書あり
明和6年9月16日		文化財7浄住寺文書1
	弘化2年3月22日 (免牘358)	免牘346では宝暦2年6月21日とする
		文政6年2月23日に会下称号を受け、それを嘉永3年8月23日に焼失に付き再発行を受ける
享保3年3月		文化財6妙泉寺文書7
享保9年1月23日		文化財6宝鏡寺文書2
享保9年1月(再発行?)		文化財6長生寺文書27、24に宝永4年9月に会下称号
		宝暦2年5月願提出(文化財5桂林寺文書49)
享保10年2月23日		「古記之録写：祖山書役扣」(永平寺文書、駒澤大学図書館請求記号：H115/123-8/1)
宝暦3年3月	天保2年11月28日	文化財5陽松庵文書25、常恒会：文化財5陽松庵文書54
		『延享度曹洞宗寺院本末牒』に未記載の寺院、仏眼寺→少林寺(静岡県掛川市)→西来寺(岡山県新見市)→禪定寺
宝暦8年12月16日		『曹洞宗報』1007禪定寺文書106では常恒会地とするも誤りで、文書104等から、常恒会で申請したものの随意会で認可されたものと思われる
寛延3年6月11日以降		『曹洞宗報』996源光庵文書34(願書)
宝暦3年5月		文化財4総泉寺文書27
安永2年9月以降		文化財3大安寺文書19(随意会地申請書)
寛延2年10月11日		『曹洞宗報』972龍雲寺文書本箱5-15 『曹洞宗報』963妙義寺文書4(8)に申請書あり
宝暦9年6月16日		文化財4洞光寺文書30(随意会・永世法事会)
	文政12年6月10日 (由緒4)	由緒4は会下称号・議定書も収録、文政12年に準常恒会を申請し、「祈禱聖会与随意会十干之間而興行八会」とする
		宝暦12年6月15日に随意会・法事会(隔年一会)(昇格申請を却下)、文化11年4月5日に会下称号の免牘を得る



### 三法幢地免牘関係資料集

通番	五院輪住909	享和寺格	寺格変更	派名	国名	村名	寺院名	總持寺史	鶴見・祖院目録
193		随意会地		太源派	陸奥	三春	天澤寺	明和6年11月24日	明和8年6月29日(免牘60)
194		随意会地	常恒会地	太源派	陸奥	三春	頭陀寺	?	享保10年(明治期資料718)
195	随093※	随意会地		了庵派	陸奥	棚倉	常隆寺	明和年中	明和3年10月16日(免牘55、399)
196		随意会地		太源派	陸奥	会津	天寧寺	?	宝曆13年6月21日(免牘52)
197		随意会地		無底派	陸奥	峠	大祥寺	?	
198		随意会地		永光末	越前	敦賀	永建寺	宝曆11年3月(永世法事会)	
199	随060	随意会地		總持直末	越前	府中	龍泉寺	?	享保14年1月16日(免牘39)
200	随087	随意会地		大乘末	加賀	金沢	淨住寺	?	
201	随088	随意会地	準常恒会	永光末	越中	富山	海岸寺	?	宝曆11年6月21日(免牘51)
202	随022	随意会地		了庵派	常陸	安房	安祥寺	文政6年2月23日	宝永2年冬(免牘319)
203	随001	随意会地		了庵派	常陸	若葉	金龍寺	享保8年9月12日	享保8年9月12日(免牘282、明治期資料44)
204	随061	随意会地		太源派	常陸	沢山	耕山寺	享保20年8月16日	
205	随039	随意会地		了庵派	上総	真里谷	妙泉寺	?	
206		随意会地		実峰派	日向	飫肥	長持寺	?	安永2年4月16日(B293)
207	随051	随意会地		天真派	甲斐	鎮目	保雲寺	?	享保9年1月23日(免牘33)
208	随052	随意会地		法王派	甲斐	夏狩	宝鏡寺	享保9年1月23日(会下称号)	
209	随050	随意会地		了庵派	甲斐	郡内	長生寺	享保9年1月22日(会下称号)	
210	随048	随意会地		了庵派	甲斐	亀沢	天澤寺	?	
211	随049	随意会地		了庵派	甲斐	竜王	慈照寺	?	
212		随意会地		了庵派	甲斐	若神子	正覚寺	?	
213		随意会地		永光末	甲斐	道村	慈観寺	?	天明6年5月28日(免牘67、351)
214	随065	随意会地		了庵派	相模	延沢	西福寺	?	寛保3年9月3日(免牘153)
215	随029	随意会地		天真派	但馬	豊岡	養源寺	?	
216		随意会地		通幻派	丹後	田辺	桂林寺	?	宝曆2年6月(免牘397)
217	随054	随意会地		通幻派	丹後	宮津	智源寺	?	享保10年(明治期資料44)
218	随070	随意会地	常恒会地	通幻派	摂津	吉田	陽松庵	明和7年(永世法事会)	
219	随025	随意会地		法王派	摂津	三田	心月院	宝永年間	
220		随意会地		大乘末	摂津	熊田野	仏眼寺	天明元年(永世法事会)	
221	随059	随意会地		天真派	伊賀	上野	広禅寺	?	享保13年8月(免牘38)
222	随080	随意会地		大乘末	山城	宇治田原	禅定寺	宝曆8年12月16日	
223	随077	随意会地		大乘末	山城	鷹峯	源光庵	明和5年(法事会)	
224	随078	随意会地		總持直末	伯耆	八橋	退休寺	?	宝曆2年12月(免牘48、原本)
225	随067	随意会地		總持直末	伯耆	米子	總泉寺	?	宝曆3年5月(免牘96)
226		随意会地		石屋派	日向	佐土原	大安寺	?	
227		随意会地		了庵派	伊豆	田中	蔵春院	嘉永3年	
228	随075	随意会地		玄翁派	石見	三隅	龍雲寺	寛延2年10月11日	
229	随081	随意会地		石屋派	石見	益田	妙義寺	宝曆9年2月23日	
230	随092	随意会地		天真派	出雲	松江	洞光寺	宝曆4年(会下称号)	宝曆9年4月3日(B304)
231	随037	随意会地	祈禱随意	通幻派	長門	萩	海潮寺	正徳5年(会下称号)	正徳5年3月3日(由緒4)(B314)
232		随意会地		石屋派	長門	清末	高林寺	?	
233	随014	随意会地		石屋派	伊予	松山	龍穩寺	文政11年8月(永世法事会)	
234	随015	随意会地		石屋派	伊予	宇和島	龍潭寺	?	元禄12年4月(免牘425)
235	随056	随意会地		石屋派	紀伊	有馬	安楽寺	?	享保10年8月3日(免牘404)
236	随074	随意会地		總持直末	備中	道祖兒	永祥寺	宝曆12年6月16日(永世法事会)	寛延元年10月16日(由緒2、免牘34)

その他典拠	寺格変更	その他典拠・寺格変更詳細、備考
		随093～097は五院輪住969①④⑤にはナン、五院輪住969③の追記(別筆)により補う、文政4年11月29日に焼失に付き再発行を受ける
		随093～097は五院輪住969①④⑤にはナン、五院輪住969③の追記(別筆)により補う
		随093～097は五院輪住969①④⑤にはナン、五院輪住969③の追記(別筆)により補う
天明6年10月8日		文化財7種月寺文書45
文政12年2月16日(免牘113、355)		『祠曹雑識』では吉祥寺と医王寺の間にあり
		『大乘聯芳史』には満圭祐天(?～1803)代のこととあり(『曹洞宗全書』史伝上、586頁)
元禄9年8月15日		『永平寺史料全書』文書編3巻No12、享保14年に会下称号を追加免許されたものカ
		『總持寺史』『洞門政要』ではこれを加えて一一五随意会地とするも、『三利留書』『祠曹雑識』には記載ナン。
		「今ハ平寺」(五院969①③④⑤)注記アリ
	元禄年間(随意会地のみ)	「十七世時洪水、田圃多荒、因輟随意会」(『幽谷余韻』6、『統曹洞宗全書』寺史268頁)、智眼鏡宝(?～1743)代に随意会を停止したのか、「古記之録写:祖山書役扣」所収免牘には、元禄年間に随意会地となり、享保9年に会下称号を追加申請したものとなる
天明5年11月		文化財6香雲寺文書120
宝永1年5月15日		文化財6双林寺文書29
宝暦12年6月15日		文化財4長川寺文書3(1)(2)、17
		三年一回
		該当寺院不明
		『總持寺史』は常恒会地とするが、本文の「準常恒会地格、会下称号、法事会修行、三五歳一会」により改めた
文政9年5月		文化財7光禪寺文書24、但し3～5年の間に法事会一会興行許可
		文化財7長国寺文書49に関連文書あり

三法幢地免牘関係資料集

通番	五院輪住909	享和寺格	寺格変更	派名	国名	村名	寺院名	總持寺史	鶴見・祖院目録
237	随095※	随意会地		了庵派	陸奥	石川	長泉寺	安永3年3月10日	安永3年3月10日(免牘329)
238		随意会地		石屋派	備後	尾道	天寧寺	?	
239	随097※	随意会地		太源派	信濃	保科	広徳寺	?	天明4年6月20日(免牘106)
240	随096※	随意会地		天真派	信濃	横尾	信綱寺	?	天明6年6月23日(免牘16)
241		随意会地		太源派	越後	橋田	吉祥寺	天明6年10月8日	天明6年10月8日(免牘68)
242		随意会地		石屋派	伊予	角野村	瑞応寺	?	寛政2年12月(明治期資料44, 片法幢地)
243		随意会地		總持直末	肥前	唐津	医王寺	天明8年1月	
244		随意会地		通幻派	肥前	唐津	恵日寺	?	
245		随意会地		天真派	伯耆	竹田	曹源寺	?	寛政2年6月116日(免牘86)
246		随意会地		石屋派	因幡	鳥取	天徳寺	寛政2年2月	寛政2年2月(免牘83、84)
247		随意会地		石屋派	肥前	武雄	円応寺	?	
248	随007	随意会地		了庵派	上野	高尾	長享寺	享保14年12月3日	
249	随027	随意会地		了庵派	下総	布川	来見寺	宝永5年3月23日	宝永5年3月23日(免牘183)
250	随002	随意会地		了庵派	常陸	完倉	吳泰寺		
251	随003	随意会地		天真派	下野	黒羽根	大雄寺		
252	随004	随意会地		天真派	下野	大田原	光真寺		
253	随012	随意会地	資格返上	了庵派	下野	千本	長安寺		
254	随023	随意会地		了庵派	上野	佐野	天応寺		
255	随028	随意会地		了庵派	武蔵	八王子	高乗寺		
256	随041	随意会地		峨山派	下総	臼井	宗徳寺		
257	随079	随意会地		太源派	相模	橘沢	松岩寺		
258	随083	随意会地		了庵派	上野	神保	仁叟寺		
259	随085	随意会地		大徹派	尾張	鳴海	瑞泉寺		
260	随089	随意会地		無著派	筑前	博多	明光寺		
261	随017	随意会地	資格返上	了庵派	上野	安中	桂昌寺	享保9年4月6日	享保9年4月16日(B289)
262	随038	随意会地		了庵派	武蔵	騎西	善応寺	享保2年秋善月23日	享保2年秋善月23日(B288)
263	随040	片法幢地	随意会地	了庵派	相模	田代	勝楽寺		
264		随意会地			佐渡	相川	総源寺		
265		随意会地			備中	鴨方	長川寺		
266		随意会地			出羽	山田	最禪寺		明和7年8月(免牘59)
267		随意会地			丹波	御油	永谷寺		天明8年4月(免牘73)
268		随意会地			遠江	西萩間	大興寺		寛政7年6月(由緒10)
269		随意会地			武蔵	下奈良	集福寺		天保13年3月25日(免牘409)
270		随意会地			長門	府中	笑山寺		弘化3年4月5日(免牘123、409、B698)
271		随意会地			長門		光林寺		安政3年12月18日(免牘129)
272		片法幢地			駿河	坂本	林叟院	文久3年9月27日	文久3年9月27日(免牘132)
273		随意会地			石見	銀山	龍昌寺	文政5年12月16日	
274		準常恒会			阿波	本庄	丈六寺	文政9年10月17日	文政9年10月17日(由緒3)
275		随意会地			越中	永見	光禪寺	文政9年5月	文化9年5月(免牘105、352)
276		準随意会			若狭	伏原	発心寺	文政9年9月15日	
277		随意会地			肥前	島原	本光寺	文政11年8月22日	文政11年8月22日(免牘111)
278		随意会地			越後	柏崎	福蔵院	文政11年9月16日	
279		準常恒会			信濃	内山	正安寺	文政11年9月	文政11年10月1日(免牘16)
280		常恒会地			加賀	金沢	鶴林寺	文政11年	文政11年6月21日(免牘107)
281		随意会地			陸奥	江刺	光明寺	文政12年	文政12年5月23日(免牘114)
282		常恒会地			信濃	青柳	碩水寺	文政12年7月	文政12年7月15日(免牘286)
283		常恒会地			信濃	麻績	法善寺	文政12年7月	
284		準常恒会			山城	出水	慈眼寺	文政13年4月14日	文政13年4月14日(免牘116、407)

その他典拠	寺格変更	その他典拠・寺格変更詳細、備考
宝暦11年8月		文化財8可睡斎文書100、『可睡斎史料集』1、161頁、可睡斎が発行したものと思われる
天保7年2月25日？		文化財3洞松寺金石文5
天保10年2月29日		愛知学院大学図書館編『正眼寺文書目録』掲載写真により寺格を補正
天保11年7月		『長秀院誌』57～58頁、4～5年に一度興行
弘化3年		『諏訪の名刹』2、53頁
延宝5年？		『但馬見性寺記』(『曹洞宗全書』寺誌、482頁)
		免牘は可睡齋が発給
	明治17年10月15日 布達甲21号で廃止	
	明治17年10月15日 布達甲21号で廃止	
	明治17年10月15日 布達甲21号で廃止	
	明治17年10月15日 布達甲21号で廃止	
	明治17年10月15日 布達甲21号で廃止	
	明治17年10月15日 布達甲21号で廃止	
	明治17年10月15日 布達甲21号で廃止	
	明治17年10月15日 布達甲21号で廃止	
慶応1年11月11日		文化財2長勝寺文書9、免牘360は副状として總持寺が発給するものの案文
享保9年2月26日		三法幢地格なく会下称号のみ、『大野市史』1、600頁
享保14年9月3日		三法幢地格なく会下称号のみ、「古記之録写：祖山書役扣」(永平寺文書、駒澤大学図書館請求記号：H115/123-8/1)
		三法幢地格なく会下称号のみ

# 三法幢地免牘関係資料集

通番	五院輪住969	享和寺格	寺格変更	派名	国名	村名	寺院名	總持寺史	鶴見・祖院目録
285		準随意会			越前	鱒江	萬慶寺	文政13年12月16日	
286		片法幢地			伊豆		修禪寺	天保2年11月	
287		片法幢地			遠江	明大寺	龍海院	天保4年3月12日	
288		準片法幢			美濃	岩手	禪幢寺	天保7年12月16日	
289		随意会地			備中	横谷	洞松寺	天保8年11月8日	
290		準片法幢			武蔵	麻布	賢崇寺	天保8年12月	
291		準常恒会			尾張	下津	正眼寺	天保10年2月29日	
292		準随意会			信濃	石村	長秀院	天保11年	天保11年3月28日(免牘285)
293		準随意会			信濃	長沼	妙笑寺		天保11年(明治期資料723)
294		準常恒会			紀伊	和歌浦	羅漢寺	天保11年11月19日	
295		準常恒会			下総	山川	万松寺	天保13年11月22日	天保13年10月22日(免牘202)
296		準常恒会			志摩	鳥羽	常安寺	天保15年8月晦日	
297		準常恒会			出羽	大山	善宝寺	弘化2年1月24日	慶応1年閏5月2日(免牘134、135)
298		随意会地			信濃	諏訪	頼岳寺		
299		随意会地			加賀	金沢	玉龍寺	弘化4年10月	弘化4年11月17日(免牘124)
300		随意会地			但馬	出石	見性寺	弘化5年3月1日	
301		随意会地			駿河	一色	成道寺	嘉永2年12月	
302		随意会地			駿河	富士	金正寺	嘉永3年5月9日	嘉永3年5月9日(免牘443)
303		随意会地			遠江	高御所	正法寺	文久3年6月12日	文久3年6月12日(免牘130)
304		準常恒会			紀伊	若山	久昌寺	慶応1年5月2日	慶応1年閏5月2日(免牘134、135)
305		準常恒会			紀伊	若山	珊瑚寺	慶応1年5月2日	慶応1年閏5月2日(免牘134、135)
306		準常恒会			紀伊	若山	窓誉寺	慶応1年5月2日	慶応1年閏5月2日(免牘134、135)
307		準常恒会			紀伊	若山	大泉寺	慶応1年5月2日	慶応1年閏5月2日(免牘134、135)
308		準常恒会			紀伊	若山	高松寺	慶応1年5月2日	
309		準常恒会			紀伊	若山	法泉寺	慶応1年5月2日	慶応1年閏5月2日(免牘134、135)
310		準常恒会			紀伊	若山	恵運寺	慶応1年5月2日	慶応1年閏5月2日(免牘134、135)
311		準常恒会			紀伊	若山	林泉寺	慶応1年5月2日	慶応1年閏5月2日(免牘134、135)
312		常恒会地			陸奥	弘前	長勝寺		慶応1年(免牘360)
313		会下称号			越前	大野	宝慶寺		
314		会下称号			伊豆	宮上	最勝院		
315		会下称号			下総	結城	乗国寺	文政6年7月23日	